

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 木 2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	言語と芸術 (美術の歴史) Language and Art (History of Art)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 針貝 綾 / Eメールアドレス: aharikai@net.nagasaki.u-ac.jp / 研究室: 美術棟 2 階 / オフィスアワー: 木曜日 13:30 ~ 14:30			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: ルネサンス時代の名作の鑑賞を通して、美術に対する関心と理解を深めてもらいたい。  授業方法: 視覚教材により美術史に関する基本的な事項、社会的背景や作者について説明を行った後、作品の形状と表現方法を客観的に記述し、モチーフの意味や作者の制作意図を多角的に分析しながら、作品について理解を深めていく。  授業到達目標: 作品を漠然と眺め、好き嫌いで作品を振り分けるといった直感的な美術の楽しみ方から一歩進んで、作品を詳細に観察して形状を記述・分析し、アトリビュートの意味、アトリビュートと登場人物との関係、作品の内容について読み解く力を身に付け、最終的に美術史の基礎的な知識に基づき、美術作品について説明できるようになることを目標とする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 本講義では、イタリア・ルネサンスと北方ルネサンスの代表的な画家や彫刻家たちの名作を取り上げていく。  第1回 オリエンテーション 第2～3回 フラ・アンジェリコ(キリストの嘲笑)の表現方法 第4～5回 ダ・ヴィンチの《最後の晩餐》における遠近法と主題 第6回 ミケランジェロの彫刻 《ダヴィデ像》の革新性 第7～8回 ミケランジェロの絵画 システィナ礼拝堂壁画《最後の審判》 第9～11回 ボッティチェリ《春》の作品解釈 第12回 ラファエロ《アテネの学堂》の登場人物 第13～14回 デューラーの《メランコリア》と四性論 第15回 定期試験			
キーワード	ルネサンス、人文主義、寓意		
教科書・教材・参考書	教科書: 高階秀爾監修『西洋美術史』美術出版社		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的参加状況(30%)、授業時間内のレポート(10%)、最終試験(60%)を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)	美術や歴史に関心があること		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)	美術館や博物館に足を運んで実作品を見たり、書籍等を読んで美術について考える時間を作ってほしい。		